

《二度目のお使い♪》

2009年11月…、またしても行ってまいりました。インド直行、一人旅～☆

毎度おなじみ、旅行記です。お時間 許すなら、暇つぶしにでもドゾ～♪

《2009年11月現在での相場》

1ルピー = 2円。1ドル = 45ルピー。

ガソリン・1リットル = 45～47ルピー。

(※インドも産油国ですが大半は輸入。あいかわらず、石油価格は世界共通…。) 前回の訪印(2009年4月)から、おおよそ5%程度の物価&人件費アップだとか。

木製品のメイン材料『シーシャンウッド』も常時値上がり中。(※詳しくは言いませんが、2020年現在、余程の事が無い限り、材料に使えなくなりました。)

サイババ・ナグチャンパなど、シュリーニヴァース社の製品は、なんと2009年12月から全て値上げ。今回は寸前で発注、ギリギリセーフ! もっとも、次回からはアウトですな。

ちなみに最近(←2009年 時点)、ホテルでの支払いはルピーのキャッシュカードがイチバン好まれてま

す。次がルピーの現金、三番目がドルの現金。(ドルはルピーに両替する際にかかる手数料などがプラス。手数料は向こうの方にとって大金)

※かつて現金で支払ってた頃は、手続きに30分ぐらいかかってましたが、近年はVISA等のキャッシュカードがあれば、5分かそこらで終了。

私がウツカリ、サプライヤーからの質問「お釣りは受け取りましたか？」に、「受け取ってないかも…」と応え、大騒動。高級ホテルは監視カメラで身内をも監視。その時の映像をしっかりとチェック。おつりを渡していた場面が映っていたそうです。(悪いことにその時の担当が支配人…)本当に悪いことをしました。

※流石にトイレの中にまで監視カメラはありませんが、ソレを良いことに、チップ不要の某ホテルのトイレで、ボーイが手を拭く紙を差し出ししながら、「私が貴方の部屋を綺麗にしています。」と嘘をつき、チップをねだってきた事も…。

《市内の様子》

日本が協力中の鉄道(通称メトロ)は60%完成。100%になったら、行き来できる距離(線路の長さ)が二倍近くになるため、渋滞(トラフィック)緩和。道路では日本同様、渋滞となると1キロ通過に15分

なんてこともザラ。

「あとちょっとでホテルに到着するよー。ついたらロビーから電話するから、**部屋で**待っててね☆」と連絡が入ったら、素直に従いましょう。

(by失敗 経験者)

さて、道路わきに露店がズラリと並ぶマーケット(市)も見てきました。といっても、まだ午後4時ごろで準備中。商品を並べたり、バラック(?)を組み立ててる真っ最中。

開店は5~6時で、終了は深夜12時だとか。食べ物の屋台、果物、衣服、おふとん、電化製品、なんでもござれ。この通りでは週に一回、水曜日に開催するのだそう。



《ゼイタクは、なんとやら〜…。》

「ゼイタクは素敵☆」ということで、今回はビジネス…もとい、エグゼクティブ クラス。七回目の渡印とはいえ、一人ではまだ二回目。疲労を警戒して大盤振る舞いの結果、念願のオバケイスに着席！

ひじかけのボタン ワンプッシュするだけで、ねそべり・飯時・着陸用の3つの姿勢になれてラクチン、ラクチン♪（ただし、ねそべりは、適当なところで、もう一回 押して止めないと脱いだ靴が下敷きになるかも？）





窓側は景色がいいかわりにトイレに行きづらい…
というデメリットがありますが、うっかり通路側の方
が熟睡しちゃったら、リモコンについでるボタン
を押して、フライト アテンダントさん（旧スチュワ
ーデス）をコールしましょう。

リモコンはヨコにするとゲームのコントローラー
で裏は電話。ビッグな画面で、映画・音楽・ゲーム
をたんのうしました。





足の大きな人でも安心サイズのスリッパに、毛布にクッションが備わっていて、

必要ならセーターを貸してくれます。(ちと厚着をしてたせいでサイズがアウト…。)

読書用のちょうちんアンコウ ライトに加え、アイマスク、アイリフレッシュャー、歯ブラシなどおしぼりやおつまみが配られ、シャンパンやオレンジジュース、ミネラルウォーターや高級酒(ワインや日本酒?)が飲み放題(?)。ソーダ割りもOK。



もっとも、私は警戒してミネラルウォーターと、あったかい日本茶だけでしたが、ウォーターはストックから三本、日本茶も幾度か運んでいただき、けっこうワガママにすごさせていただきました。

機内食もこだわりの一品でゴーカけんらん！ 洋食・和食のどちらかを選びます。洋食は、メインティッシュ（2種）・ごはんorパン・飲み物をチョイス。（パンかご飯か迷っているのを見かねて両方持ってきてくれました。）うっかりミスでコールしたりもしましたが、お世話になった担当フラテン・Hさん、アリガトー♪



《地方出張の巻》

さて、今回は白檀製品のサプライヤーが事務所を構えるジャイプールへGO！

移動手段は、われらがメインサプライヤーのホンダ車とそのお抱え運転手 Aさんデス！ 早朝6時半にホテルへ迎えに来ていただき、テリーを出発。

昔日とは比べ物にならないほど整備されたハイウェイをすっ飛ばし、車と車の間をスイスイ泳いで、4時間後の午前10時半にはジャイプール市内入り♪ さすがは、元ハイヤー乗りにしてレーサー見習い！

素人から見るとスリリングなドライブでも、プロの目からはパーフェクト安全運転♪（他人の運転する横に座ると、それが家族でもけっこうヒヤヒヤします。）

帰りは、翌日 午後2時にジャイプール市内を出発。テリーに着くまでは前日同様4時間 程度で済んだのですが、市内に入ってからが渋滞で、ホテル到着は午後8時ごろ…。それでも早くつけたほうです。Aさんアリガトー♪。

あと、途中で寄り道をいやがる私に付き合っ、絶食させてゴメンナサイ！

（この日のAさんの昼食は、脇道で購入したバナナ2本だけでしたとさ…。）

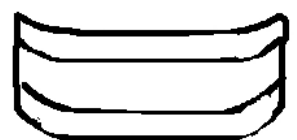
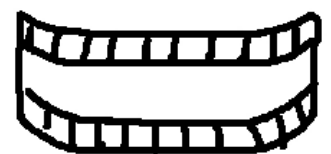
こっちは車内でビスケットを食べとくから、遠慮な

くレストランに行っておくんなさいよと伝えたのですが…（モチロン、後でフォローはしときましたヨ？）。

さて、冬場の車中スリッパはちときついようです。なんせあったかい空気は上に向かうわけで下はサムイ…。次からは足スツポリなモコモコを持参予定。

《白檀ぐっず、えとせとら…。》

たくさんある白檀製品の中から、日本でうけそうなものをセレクト。なにせ、インドの輸出産業は欧米からの発注がホトンド。自然、デザインもヨーロピアンチック。目がコワ～イ、歯をむき出しにしてニマ～と笑う まるでジョーズ（！）な ほていサンとか。（ま…！ おじょーず♪）こちらは、中国に売れてるそうです。



こないだ作ったダイコクさん（ハンマーマン）やエビスさん（フィッシャーマン）もそんなかんじです。日本と諸外国の美的感覚の差異が感じられますネ。仏像でも、奈良の大仏サマを見なれた身としては、「こんなの仏像じゃないや〜い！」というのが仏像だったり。なんせ、ヨーロッパの神様のイメージは、聖母マリア像や天使像…。まだまだ、グローバル化は遠いようです。



数年前、職人さんの親分を連れて鎌倉や京都を見学し、ようやく和風の仏像が出来たと思ったら、今度はヨーロッパから「こんなの仏像じゃない！」と怒

られたとか…。話かわって、左はオミヤゲにいただいたガンジー。(売れる?)

弊社の製品開発は、まずサンプルを持参。絵や写真を交えて説明。作りやすい大きめサイズで、白檀以外の安い木を使った試作品を発注。?年後に完成した試作品の出来ばえを見てから、量産するかを決めます。

招き猫、干支、五重の塔に酒マス(カビました)、竹芯香用香皿(高すぎる)、お地藏さん(杖用に長い材料が必要→材料費UP)、



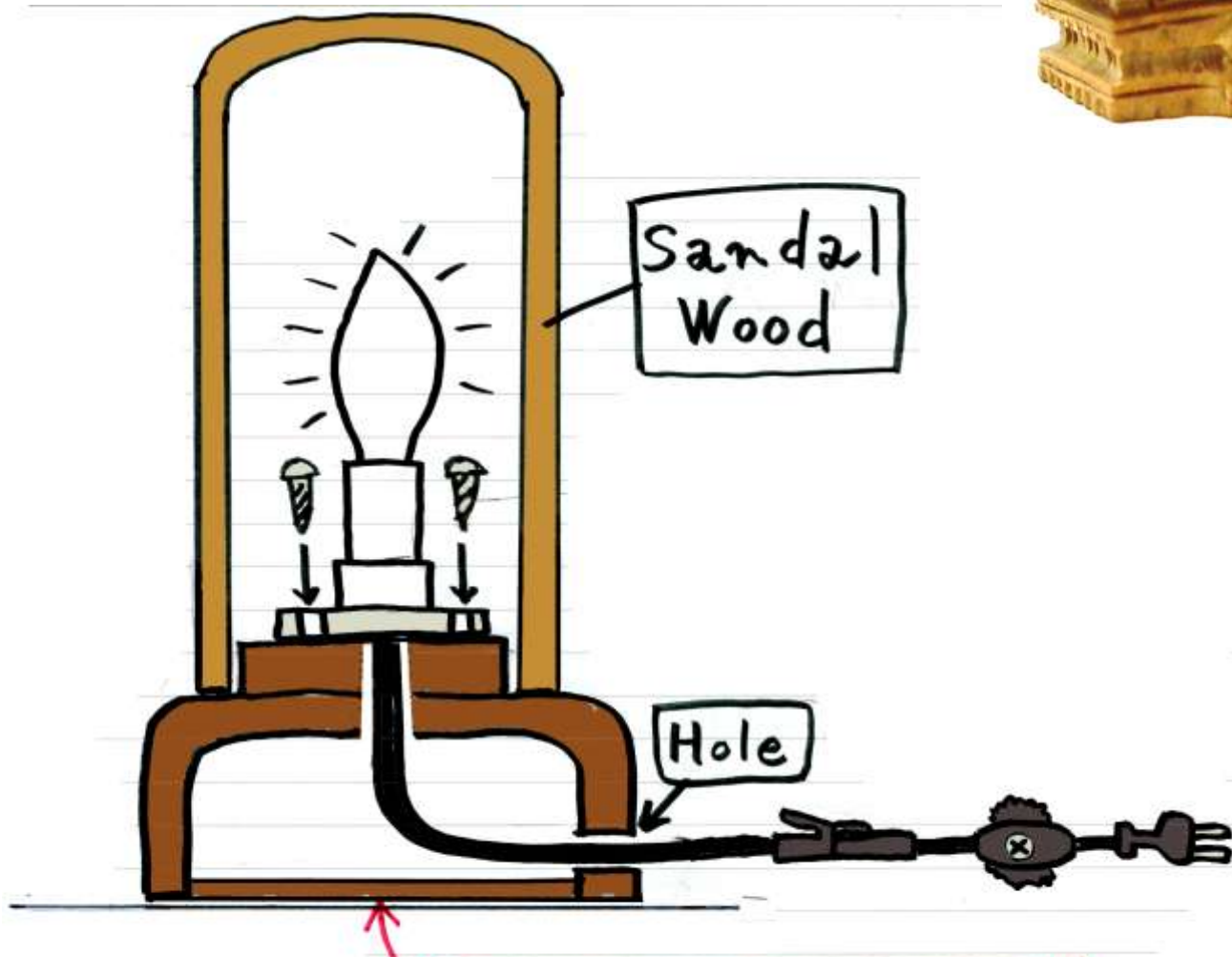
香合（インドでは開閉できたのが、温湿度が異なる日本だと開かない閉まらない）、



囲炉裏お魚キーホルダー、カエル、海がめ（むこうは陸ガメ。但し、縁起の良いとされる緑毛亀は陸ガメでOK）、



アロマライト（電装が困難）、名刺、金閣寺、



ペーパーナイフ、しおり、タバコを差し込むパイプ、
長財布に入れるカード（割れました）、



扇子(ただでさえ長い材料を使うせいで値が張るのが、値上がりでいよいよ無理に。仕方なく、油の多くない部分を使って価格を抑えようとしたら、油よりも水分が多い所為か、綺麗に平らに均らした板がプロペラみたいにクニャクニャ、不揃いに)等々。



ダイヤの原石が大きいと値段が跳ね上がるように、白檀も、**油が多くて**長い部材は値段が跳ね上がります。地蔵に杖をくっつけると予算超過とか、ペーパーナイフが持ち手と刃を接着するデザインでも、なお商売が成り立たなくなかったのも、扇子が高かったのも、その為。ゾウでも、ペチャンコなゾウとふっくらしたゾウでは、使える材料の手に入りやすさ(プラス値段)が違います。白檀の油が多い部分は、決まった形状ではなく、オネシヨの地図のように不定形。



本を一冊かけるぐらいトライ！ 結局、むこうにすでにあるものを、細部を置き換えて日本風にしたてるのが限界のもよう…。(フクロウの顔を日本向けにカワイクできたのだけは◎ でも、欧米人には×。)



変わった所では、天球儀。
作り方は、聞けば簡単な理屈。
でも実際に作るのは大変。
腕の良い職人が お亡くなりで、
もう品質がよいものは手に入ら
なくなりました。

昔、某デパートに貸し出して
展示中のハンド ボール サイズが
紛失したのも懐かしい思い出…。

(外国の博物館には大理石製があるとか)



今回 仕入れた目玉が左下！ 英雄クリシュナの一
生(名場面の数々)を刻んだ『クリシュナ・タワー』
。高さは、43インチ (1メートル9センチ)。



次に下が、猿の神様ハヌマーン。神の生まれ変わりラーマ王子に忠誠を誓い、スリランカの魔王退治に同行。あの孫悟空のモデルでもあります。高さは申し分ないものの、横から見ると安定性に難…。後ろに板をはりつけるよう頼んでおきましたが、これは厚みがあると値段がはねあがるため、うすく作りがちなのです。余談ですが、どこかの市内でウスイウルトラマン サイズのハヌマーン像を見かけました。意外な話、それほどメジャーではないとか。



《じゃぱにーず ぶーど・れすとらん。その名はサクラ！》

今回もメトロポリタン ホテル(旧ニッコウホテル)に宿泊しましたが、1FのレストランSAKURAではあいもかわらず、ハイクオリティーな日本食を提供してくれました。とはいえ、翌日に朝食をとりに行ったときは、閉まっていた戸惑うこと しばし…。(入り口脇に英語の説明はあるものの、読解力が不足！)

朝食バイキング中の洋食レストランに、SAKURAのウェイターさんが一人出張っているのが見えたので、そちらに入ってお願ひしたら持ってきてくれました。

白米、味噌汁、塩ジャケ、おくら納豆、タクアン、ノリ(味ノリではない)。

パーフェクト日本食の見事さに、撮影許可を得て激写！





次からはウェイターさんの和服姿もとっておく予定…。

実はウェイターさんの多くは、顔立ちが日本人に近いという話のネパール出身の方々。日本人観光客にくつろいでもらうための配慮だそうで、片言の日本語など使って挨拶してくださいます。ちなみに、女性のウェイターさんは着物姿。店内の調度品や壁にかかっている芸術品も日本風。

うな重が1000ルピー（二千円）、天井や味噌ラーメンがそれぞれ500～550ルピー（約千円）。ベジタリアンセットなるヘルシーでオトクなセットもございまして、内容は野菜のてんぷら、揚げ豆腐にご飯、味噌汁など。

中で食べられる他に、手弁当も作ってくれるそう

で、いたれりつくせり…。ちゃんとメニューにもものっています。(ソノ中にはベジタリアン弁当も!) 毎度、湯飲みに入ったホットティーには今回も心休まりました。ありがたや～。



《ショッピングセンター 2》

イギリス(通称ユケ=U.K.)、アメリカ(通称ユーエスエー)のブランド品など、一流どころがズラリ。ワニのマークで有名な服屋さんなど、日本で買っても同じ位するものが…。もっとも、ショッピングセンターは警備や設備などに相当なお金がかかっているわけで、ものによってはローカルなエリアに行けば半値近くで買えるとか。たまたま品切れでそ

ちらにむかったところ、ちょうど日曜で買い物客が多いこと、多いこと…。とはいえ、路上駐車は警備員サンが料金を取ってキチンと整理。車両一台 通れる幅が確保されていました。

ローカルという聞こえは悪いですが、ホリデイには人がたくさん買い物に来る一等地！

こんな良い場所を商売に使わず駐車場にするなんてトンデモナイ！というカンジ。

《しゅっこくチェキ！ 2》

エグゼクティブ クラスは特別なラウンジで休憩させてもらえるのですが、今回はちとしくじりました。むこうとこちらで思考形態が違うのか、くだんのラウンジがある場所が、なんと書類審査とボディチェックのあいだ…。地図も一応わたされたし、JALカウンターの日本語ペラペラの方（日本人？）にも教えていただいたのですが、聞き間違えたらしく…。

まさかと夕力をくくりつつ、帰国時で気もせいいて、ボディチェックも済ませたところ、やはり入れませんでした。受付でたずねても、やはりムリ…。

日本を出るときは、チェックを全て通過して、あとは飛行機に乗るだけ、という位置関係で利用させていただきましたので、勝手な先入観が働いた次第。

ちなみに、日本のラウンジは、ファミレスのドリンクバーをちよいと豪華にしたカンジ。新聞雑誌がたくさんあって、広いスペースにソファや机&イスがいっぱい。電動マッサージイスが置かれている部屋（10台くらい？）や、コイン不要のキーロッカー（数はチョイ少なめ）。上階には軽食を取れるミニバイキング。どちらの階にも、お酒が飲めそうなカウンターがありました。上階へは階段だけでなくバリアフリーなエレベーターも…。

そうそう、今回は入国時にいつもより一枚多く書類を書きました。インフルエンザ関連ですね。日本に帰るときはともかく、インド入国の際に提出するのは英語のため、分からないところはフラテンさんに手伝っていただきました。

《日本英語》

むこうの英語は、イギリス英語。こちらの英語はアメリカ英語。それに加えて、ジャパニーズイングリッシュなんてものもあり、意味が通じなかったり細部の読み方が違っていたり…。シリカゲルはシリカジエル。うーん、意外と難しい。

もっとも、本場イギリスが本社の英語教室シェーンさんに通っていたため、意外と話が通じました。週一回とはいえ、ふだんから使っているとイザという

ときにケツコウ言葉が出るものです。父と同行したときの門前の小僧もかなり役に立ちましたが、英語と日本語は文章の組み立て方が逆…。専門家が聞いたらダメだしをくらうところ。とはいえ、通じているのだから、ノープロブレム♪

《トイレ》

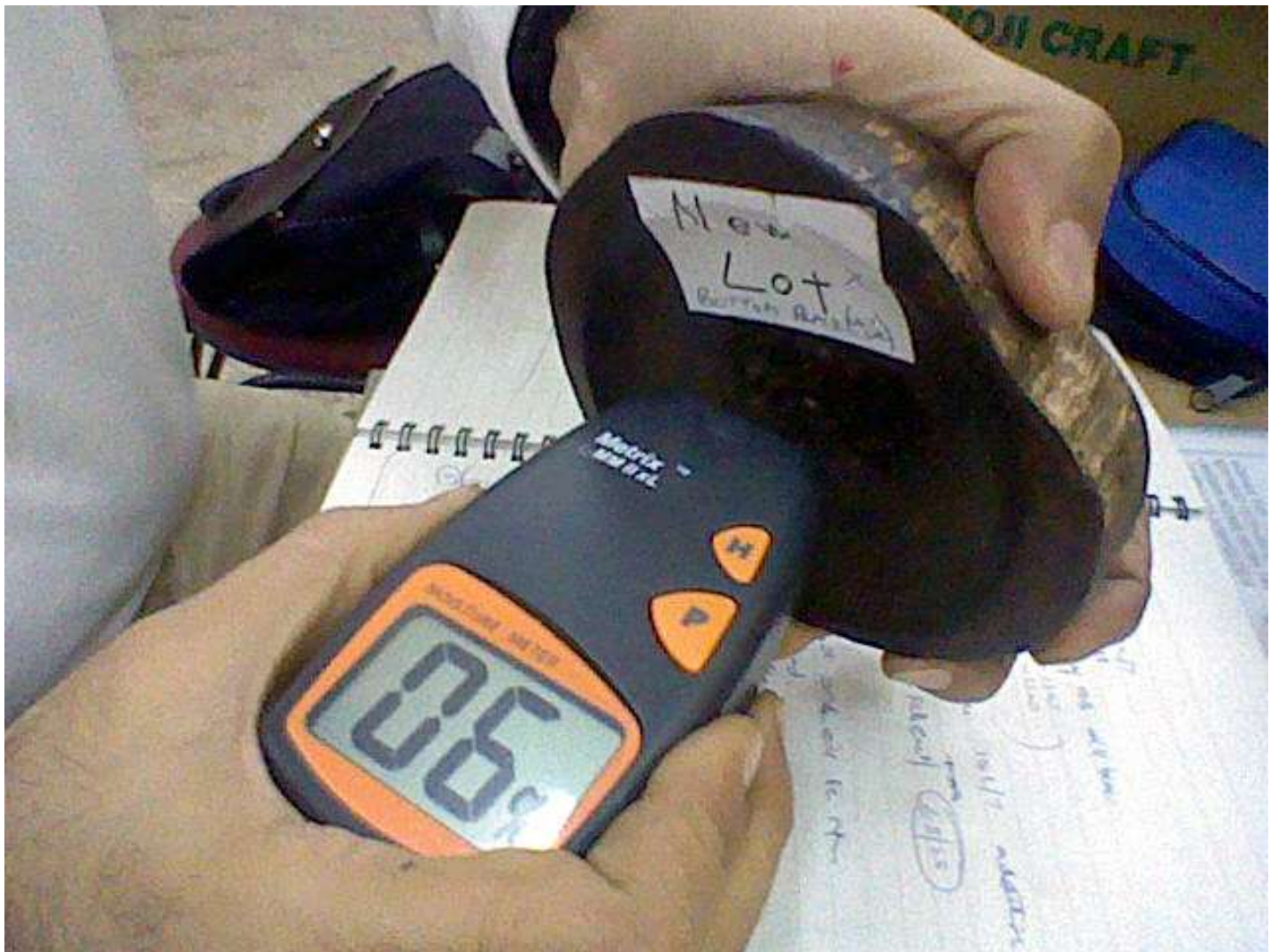
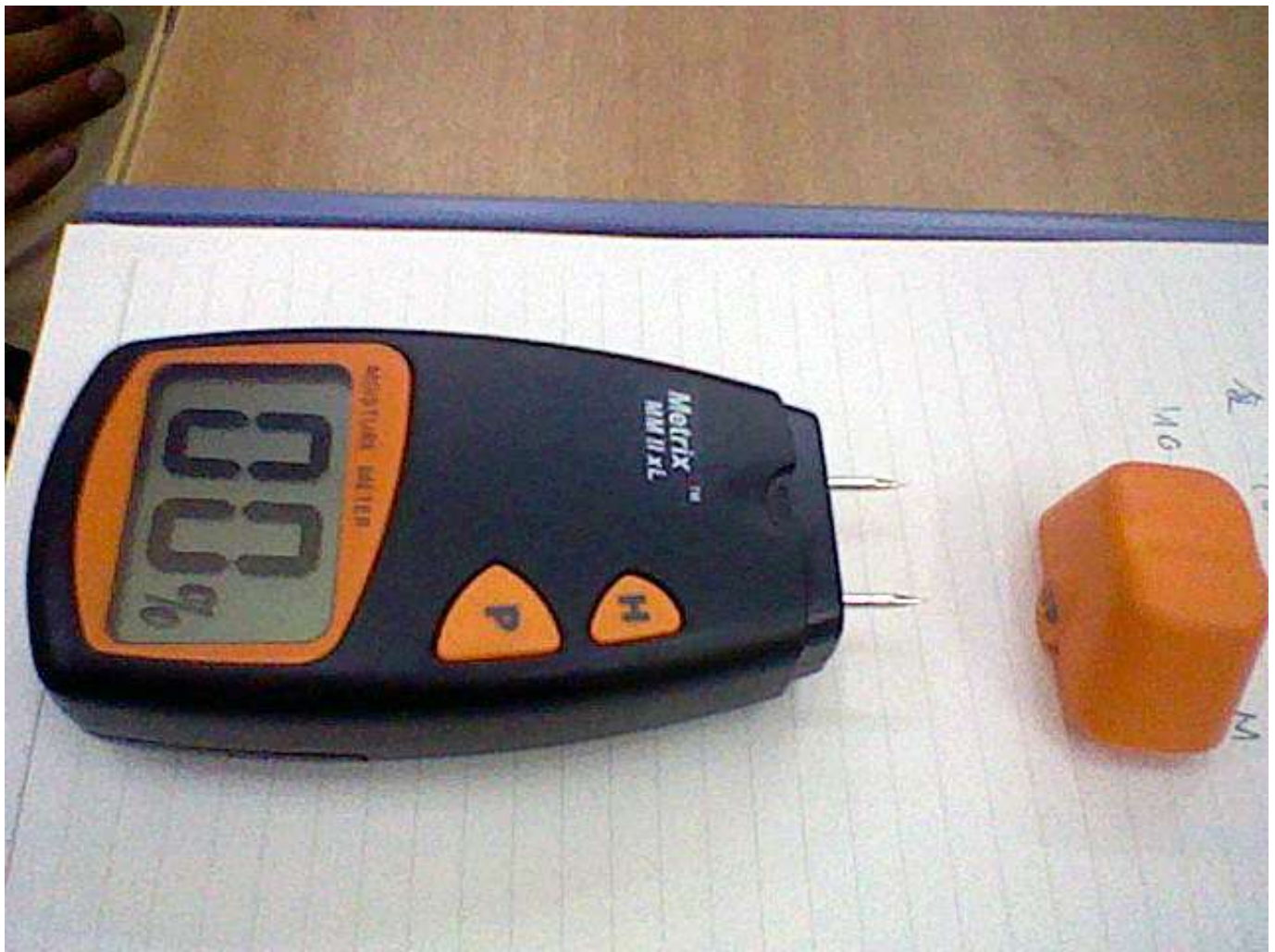
トイレにはシャワーというか、放水器が置いてあるわけですが、グリップの構造が単純なものも多いため、使い慣れてない人はうっかりすると暴発させて便座がビシャビシャに…。ペーパーも置いてないところが多いため、流せるティッシュが大量に必要ななるかも？

《湿度測定器、もとい水分計。》

木製品で困るのは、おもに虫食いやひび割れ、そしてカビ。虫食いはともかくクラックは高級文化財なみの体勢でないとキビシイもよう（現在 調査中）。

乾燥させた木材（シーズン ウッド？）を使ってカビやクラックを防ぐわけですが、それでも不安が残ります。そんなとき、役に立つのがコレ！

ゴソゴソ…。 “モイスチャ～メータ～！（ドラ○もん風に…）” 「この針を木に突きたてると、どれだけ湿気てるか分かるんだ♪」



基準としては10%以下ならまあ大丈夫。12%がリミット（限界）で、それ以上だとカビるそうです。もっとも、木によって含む水量もちがい、設定変更も必要なため、全てに通じる基準かは不明。（くりぬいた部分は水分が多目。）

写真の品は、細かい設定が必要ない、カンタンに使えるアンチョコタイプ。業者サンなら一家に一台ほしいところですよ。今、インドでの入手が容易らしく、説明書やメンテナンス等を考慮すると、現地調達の方がベター。

《ドライ》

冬場は乾燥するという事で、のど飴を持参したものの、一袋では不足…。忙しいサプライヤーの手を煩わせて、缶を買ってきていただく羽目になりました。

スモッグ（光化学？）とホコリの舞う市内はモチロン、ホテルの中もエアコンがきいてるせいか、湿度が不足しがち。次からは温湿度計を持参しますが、水の豊かな国から来たからキツイのか、現地の方は平気のへいざ！ まあ、インドでは、外気温8度で「サムイ！」と言って仕事にならず、学校もお休みというぐらいですから、さもありなん。（30度で「アツイ！」オールクローズな国も）

ぬらしたタオルをハンガーでつるしたり、風呂おけや洗面所にお湯を張りっぱなしにする、ポットにお湯を入れてフタを開けっ放しにするなど、工夫はするのですが、なかなか乾きます。(御大の解決策は、ぬれても問題ない洗面台に、ぬらしたバスタオルを貼り付けておく というもの♪ イッツ・ザ・グレイト！)

日本ほどジメジメしてないためか、外国ではシャワーがポピュラー。お風呂のノウハウは日本の専売特許のもよう。(ユルユルとお湯がぬけてゆく〜…。)

韓国のとあるホテルが、日本人 観光客むけにお風呂を改良してヒットしたという話もあるほど(韓国でも、原則はシャワーでお風呂は週に一回程度だとか)。

《ピザ屋に見られる、日本と海外の温度差…☆》

日本じゃ宅配しか見かけないピザ屋さんですが、海外では冷めないうちにお届けどころか、できたてホカホカを食せマス。なぜかといいますに、むこうのピザ屋はレストランもやってまして、どうやら日本が特殊な模様…。

欧米でもピザ レストランはポピュラーで、われらがメインサプライヤーも出張の際にはよく利用しておられるとか。ちなみに、インドでピザ屋というと

、ピザハットがトップのようで、ドイツでもよく見かけるとい話です。

あと、全店共通かは存じ上げませんが、入口脇につるしてあるベルをチン…、と鳴らしてあげると、店員さんに喜ばれます（おいしかったよ、というサイン）。

《フライト時間とビジネスマナー》

17日に日本を発ち、ようやく帰国の途につく22日。メインサプライヤーとその息子さんに見送られ、離陸2時間前には空港到着。21:20（日本時間23:50）にテリー空港（正式にはインディラ・ガンジー国際空港）を離陸。翌朝 日本時間7時には成田に到着しました。以前は片道9時間半でしたが、今回は8時間！ 航空会社サンの研鑽のたまものですね。向かい風のとときにエンジンを吹かすと燃費が悪いのが、追い風のとときだと効率がよろしいのだとか…。

そんなこんなで、わが家にたどり着いたのが、朝の9時。本来なら すぐにでも お世話になった方々に「無事 帰着」の報を入れるところですが、日本とインドは、時差マイナス3時間半。早い話 むこうは早朝です。

そこで、インドの方が起きてそうな時間帯に国際電話。そこで、とあるサプライヤーいわく、「無事なる

帰着、祝着至極…。ついては、今回の受注票は明日、Eメールにて送り申す。」とのこと。対応の早さに感心しつつ 謝辞を述べたものの、翌日は休暇。(せっかくで悪いけど、すぐには見られないヨ〜。)と内心 申し訳なく思いましたが、それから数日間というもの、いっこう音沙汰ナシ。

不思議に思い、御大に相談すると“こちらら慣れたものよ”と、苦笑いしつつ のたまわれるには「ワシも昔、真に受けては そのつど やきもきさせられたもの…。あれは むこうのビジネスマナー。“すぐにでも送らせていただきます “との社交辞令にすぎぬわ〜。」とのこと。お後がよろしいようで。どっとはらい。

《コットン、コットン…。ジュートもあるよ?》

今回、布関係ではコットン製品を勉強。船の帆にも使うというキャンバス地は、倍近くのお値段に…。むかあし 作ったキャンバス バッグは超ウス手の低価格品に押されて廃盤でしたが、インド国内の物価が上がった今日、なおさらムツカシイ。つくりをおおざっぱにしたり、生地のパ質を落とせば お安くはなりますが…。

たとえば、下はコットンテープ。持ち手を丈夫にしたいときにいいけど、採用するとチョットお高め。

(持ちやすいよう、掴む部分を折って細くしてありますが、これにも別料金が かかります…。)



四月には、黄麻のマットなんかを少量 仕入れてみましたが、どうなることやら…。



《おわりに…》

インドには、たかあい上質紙や すぐにさげちゃう

低湿紙など、高級品と安物はあるものの、中間の品が不足気味。日本製のルーズリーフやノートはそこそこの値段で良質のため、オミヤゲとして喜ばれたりします。お手ごろギフト！

アイデアグッズも喜ばれます。



2010年1月 吉日 第？刷発行

記事：平野 茂平次 監修：D r . ダン・ヘンケン

※記事内容は不正確なモノで、独断と偏見がたぶん(に?)含まれます。